

「遺伝子検査院内導入化における最近の動向」

会場：TKPカンファランスセンター3B

日時：平成28年1月9日（土）14：30～16：30

参加数：会員25名 賛助会員15名 講師4名（技師2名・メーカー2名）実務委員3名

近年、遺伝子検査の発展は目覚ましいものがある。オーダーメイド医療の実現を目指した投薬前検査をはじめ、それまで生化学的性状を主体とした検査法が主流だった微生物検査の分野にも応用されてきている。一方で、煩雑な操作や専門性を必要とする分野と認識されていたこともあり、その多くは外注検査にて処理されていた。しかし昨今、院内でも遺伝子検査が可能な簡便で精度の高い検査が開発されており、迅速な測定と結果報告を実施している施設が増加している。今回は院内にて遺伝子検査を導入し、ルーチン化している施設からの発表と分析機器の基本的原理を学んだ。

まずQプローブ法についてアークレイマーケティング株式会社から説明があり、その後、Qプローブ法を用いた分析器アイデンシーを導入している施設から、運用面を中心に話があった。次にLAMP法について、栄研化学株式会社から説明があり、続いてLAMP法を用いた分析器LoopampEXIAを導入している施設の発表があった。

メーカーレクチャーでは、DNA、PCR、遺伝子変異等の基礎知識から、Qプローブ法、LAMP法の原理、特徴について、各分析機で測定できる項目について学ぶことができた。

各施設からは、導入経緯、運用面、問題点等が発表され、それらに関してフロアと活発な討論が行われ、将来の院内導入への参考にもなり、大変勉強になった研修会だと感じた。

「宮城県臨床検査技師会平成28年新年祝賀会」

会場：TKPカンファランスセンター

日時：平成28年1月9日18：30～

研修会終了後、平成28年新年祝賀会が開催された。今回宮臨技として、はじめての企画開催となったが、会員、賛助会員あわせて88名もの参加があった。齋藤会長挨拶、日臨技長沢執行理事の乾杯で会が始まり、途中平成28年みやぎ医学検査学会大森学会長からの挨拶、参加者からスピーチ等があったが、ほとんどの時間を会員相互の交流を目的としたため、余興等は無くし、会話ができる時間を多く作った。今まで話をしたことがない会員も、和気あいあいと情報交換ができ、有意義な時間を過ごせたと考えている。終了時間まで、ほとんどの参加者が残って話し合っている姿を見て、今回のこの企画は成功だったと思っている。

文責 宮臨技学術部長 氏家 和明